

第108号 2025年 4月 1日

発行所/神山復生病院 〒412-0033御殿場市神山109 (Tel)0550-87-0004 (Fax)0550-87-5360  
(E-mail)info@fukusei.jp (ホームページ) <https://www.fukusei.jp/>



## 《 理 念 》

神山復生病院は キリストの愛に基づいて 病める人も健やかな人も 神によって創られた人間として  
喜びも苦しみも共にしながら 一人ひとりの命を大切にし 希望をもって医療と福祉に献身します



## 一粒の麦

事務局長 シスター徳永美智子

1889年にフランス人の司祭によって「一粒の麦」が神山地区に蒔かれました。  
それから長い年月を経て今、神山復生病院は新しく生き変わろうとしています。

2025年4月から医療体制を新たにし、地域の皆様の健康維持のために、一粒の麦の種が地に落ちて実を結ぶように神山復生病院で働く私たちは、皆様のお役に立ちたいと思っています。

復生病院のひとつの特徴は、職員が朝礼で理念を唱和することです。

「キリストの愛に基づいて病める人も健やかな人も神に創られた人間として 喜びも苦しみも共にしながら 一人ひとりの命を大切にし 希望をもって医療と福祉に献身します。」一粒の麦が地に落ちて実を結ぶように、看護、介護を通して患者様の幸せを祈りながら勤めて行きます。この3月末に病院の外壁塗装と屋上の漏水工事が終了し、気持ちも心も明るくこの新しい一年に向かって歩んでいます。

外来、ホスピス・介護医療院、訪問看護ステーションマリア、在宅療養支援マリア診療所、小規模多機能型居宅介護事業所マリアの家をご利用いただきましたら幸いです。

「一粒の麦」は、ヨハネ福音書 12章にある言葉です。神山復生病院で初の看護師として働かれた井深八重さんが大好きな聖句でした。井深八重さんは1923年から1978年の55年間を現役の看護師として病院のために尽くされ、神山復生病院100周年記念式典の前日に天に召されました。一粒の麦のような人生を歩まれた方でした。



## 令和6年度 神山復生会 成果・研究発表会



3月13日に令和6年度神山復生会 成果・研究発表会が行われました。皆さん日常の業務で忙しい中課題に取り組み、その成果を発表してくださいました。

### 『終末期がん患者とのコミュニケーションにおいて ホスピス病棟看護師が経験している困難感』

ホスピス病棟 伊藤美佐子



ホスピス病棟で働く私たちは日々の看護ケアの中で、多様で複雑な苦しみを持つ患者様と直面しています。看護に携わる看護師の精神的消耗感・困難感を明らかにし、その対処方法についてアンケート調査を行い、研究したことを発表させていただきました。構想や準備を含め1年間、スタッフの皆さんからの励ましや助言がありがたかったです。発表会は緊張してしまいましたが、学びを活かし質の高い看護の提供につなげたいと思います。私に気づきと学びを与えてくださった患者様に感謝いたします。



### 『スピリチュアルケア師からの実践報告 ～スピリチュアルペインを支える取り組みを通して見えたこと』

ホスピス病棟 大島とし江

スピリチュアルケアとは誰もが持つ「生きる力」を見いだし支えようとするケアです。事例では、患者自身がスピリチュアルな痛みを吐き出し、自分が望んだ生き方へ歩みを進めると、痛む思いを抱えていた家族それぞれにも変化が起きて来ました。困難の中でも自分を生かそうとする力（スピリチュアリティ）の素晴らしさと、魂の繋がりを実感しました。支えを必要としている全ての人に、スピリチュアルケアが届くことを願っています。



### 『小規模多機能型居宅介護事業所としての関わりができたと考える一事例 ～A様の「家に帰る」を理解する～』

マリアの家 衛藤洋子



私はA様との関わりの実践を発表させていただきました。この事例では、午後の入浴や徒歩での送迎、自宅との往復や散歩など可能な限り個別に対応しました。その時々々の状況に応じてみんなでアイデアを出し合い実践を重ねたことで信頼関係を築くことができ、A様にとっての【安心できる場所】になれたと思っています。今後も、個別性を重視した柔軟な支援を心がけていきたいと思っています。



### 『外来皮膚科診療を振り返って』

外来 木村眞由美

当院の皮膚科が3月末で閉じるため、長く続いていた皮膚科について何か残したいという気持ちと、外来スタッフみんなが思っていることを伝えたいという気持ちもあり、これまでの皮膚科診療の振り返りを発表させていただきました。皮膚科がなくなってしまったことに虚しさを感じながらも、4月からの外来新体制に期待しています。素敵な皮膚科の先生方とお仕事できたこと、たくさんの患者様に出会えたことに感謝したいと、改めて感じた成果発表でした。





## 『麻薬の廃棄について』

薬局 永井祐佳



今年は、医療用麻薬の廃棄についての発表を行いました。参加した方々に、一般の薬とは異なる医療用麻薬の廃棄方法や届け出などを知っていただけたのではないのでしょうか。また、廃棄されている医療用麻薬の数量や金額に驚かれた方もいたと思います。

今年で4回目となる成果研究発表会でしたが、何回経験しても慣れず緊張する場所です。しかし、発表を通じ今後の課題が見えてくる良い機会であったと感じています。薬局は、この課題に取り組み、これからも安全な薬剤管理に努めていきます。

## 『排泄支援係りのこれまでの活動について』

介護医療院 清晶裕



今回、排泄支援係の取り組みを発表させていただき、これまで普段行ってきた介助や新たに行った取り組みを振り返る機会にもなりました。

日々行われる介助を利用者様の気持ちを考え、安全に尊厳をもって取り組む事は本当に大切な事だと感じます。これからもそのことを心掛けて取り組んでいきたいなと感じました。

## 『電気使用量削減の取り組み ～効率的な空調・照明の節電方法～』

事務部 後藤和也



今回の取り組みは、年始から電気代が値上がり、今後更なる値上がりが見込まれている中、無駄なく電気を使うため、職員に節電を呼びかける一環として発表しました。空調や照明がどのようにして電気を消費するのか、どんな時に多く消費するのかというのは、電気の単位(kw等)で示されても大きい小さいだけで実感が沸きにくいと思いました。

2月の電気料金単価を元に金額にして表したことで、節電がより身近に感じていただけたと思います。



## 『「解体新書」の謎に迫る ～史跡をめぐる医学史の旅～』

診療部 江藤秀顕



15世紀半ば頃からの大航海時代とフランシスコ・ザビエルによるキリスト教の伝来。18世紀半ばに京都や江戸で行われた腑分け(人体解剖)の実態。解剖学書『ターヘルアナトミア』とそれを翻訳した『解体新書』。これらに関わる現存する史跡を提示しながら、『解体新書』の表紙に込められた著者杉田玄白の想いを明かし、彼が隠れキリシタンであったことを紹介した。



# 内科外来担当表

緩和ケア外来は予約制



	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	大橋琢也	吉津紗綾香	江藤秀顕	江藤秀顕	吉津紗綾香	大橋琢也 (第1, 3週) 江藤秀顕 (第5週) 第2, 4週休診	休診
午後	休診	休診	休診	休診	休診	休診	休診

带状疱疹ワクチンの接種の予約を承っております。

## 在宅療養支援 マリア診療所

### 在宅療養支援診療所とは

ご病気の状況やご家族の状況により、病院診療が困難な場合に、医師と看護師が直接ご自宅に伺って必要な医療を提供します。

- \* 例えば…
- ① この頃外来に通院するのが大変になってきた。
  - ② 退院後自宅に戻って生活することに不安や心配がある。
  - ③ 将来はどこかの施設に入りたいが、もうしばらくは自宅で生活したい。
  - ④ がんになっても最後まで自宅で過ごしたい、でも大変な時はホスピスに入院したい。

### 在宅療養支援 マリア診療所の特徴

- ・患者さんやご家族の希望に合わせて、自宅に伺います。
- ・24時間 365日の対応ですので、いつでも連絡が可能です。
- ・必要があれば、連携病院への入院を調整します。
- ・希望があれば、自宅での見取りも支援します。
- ・訪問地域は、御殿場市、小山町となります。



お申込み・お問い合わせは、神山復生病院地域連携室までご連絡ください。☎ (0550) 87-0004

## 今回のおすすめ

### 『時代小』



読書が好き、趣味であるという方はたくさんいると思います。私もそのハシクレでしていろんな分野の中で、江戸時代が背景の時代小説が大好きです。江戸の町の情景を思い浮かべて、今では当たり前なのがそうではない不便さを想像しながら、物語を読み進めていきます。現代でも物価高騰など色々大変なことが続いています。1日頑張っただけ帰ったら、お風呂に浸かりながら本を読み、空想にふけるのもストレス解消になるのではないのでしょうか。

(私のおすすめは平岩弓枝作「はやぶさ新八御用帳第七巻 寒椿の寺」です。)

(紹介者 マリアの家 木内京子)

## 編集後記

三月は久しぶりに雪が降りましたね。雪が降ると車の運転が心配です。でも雪が降っているのを見ると少しワクワクしてしまい、年甲斐もなく娘と一緒に雪だるまを作って楽しんでいました。春になると復生病院の桜を見に利用者様と散歩するのが楽しみです。皆さんも春になると楽しみはありますか？次号もお楽しみに！

